

ロジックモデルを活用した第 3 期市民参加推進計画の進ちょく管理の方法について

長期アウトカム（10 年以上）

目指す未来像

参加と協働により、豊かで活力のある地域社会の実現

目指す地域社会の姿

京都に関わるあらゆる主体が、まちづくりにおけるそれぞれの役割を積極的に果たすとともに、相互に信頼し、対等の立場で知恵と力を出し合い、これまでの役割の範囲を超えて連携し、支え合い、挑戦している。包摂的で持続可能な協働のまちづくりや、地域コミュニティの活性化が進み、その成果をみんなで共有し、実感している。

市民参加推進力の向上

3 つの重視する視点（共感力、育成力、解決力）を向上させることで市民参加推進力が向上

中期アウトカム（5 年ごと）

まちの課題共感力（仮称）

重視する視点 1：「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進
（中期アウトカムに係る指標）

「学び」や「信頼」をはぐくむ対話の推進が行われているかという視点でアウトカム指標を設定。
指標は、京都市市政総合アンケートや市民生活実感調査で把握した市民参加に対する意識や行動の変化に関するもの。

市民参加推進力とは

市民参加推進力は、市民参加における参加と協働を進める力で、市民参加推進計画の「重視する視点」と 1 3 の「施策」を進めることで市民参加推進力の向上を図るもの。

各施策から導き出された短期アウトカム（数値指標）を向上させることで 3 つの力（重視する視点）も向上

事業（活動）及び結果

施策 2 信頼や学びにつながる「市民と職員との対話」の推進

【評価の視点】「信頼が基盤にある対話が活発に行われているか」
（施策ごとの事業及びその結果）

- (1) 市民協働ファシリテーター養成研修
ファシリテーター養成者数〇〇人
- (2) 職員による出張講義（出前トークなど）
出張講義数〇〇回（出前トークなどの数）
- (3) 多様な主体が参加する機会の拡充
セミナー、シンポジウムの開催数

- ・事業（活動）
- ・結果（アウトプット）

（短期アウトカムに係る指標）

施策ごとに施策を推進する事業（活動）とその結果（アウトプット）、施策の成果を図る短期アウトカム（数値指標）を設定
※ 施策 1 0 から 1 3 は、市民の意識や感じていることを聞く市民生活実感調査を活用（量的評価）それぞれの取組に対するアウトカム指標として、数値で表せるものを設定。数値の増減などを見て、市民参加施策の進ちょくを評価
※ 質的な評価も重要であるため、できる限りサンプリング調査などで特徴的な動きを抜き出して評価する。施策を構成する特徴的な事業や事業を実施している地域などを対象とする。

施策 3 共創のための「多様な主体の対話」の推進

施策 5 誰もが参加しやすいデザイン

第 3 期市民参加推進計画の進ちょく管理

- ・ ロジックモデルの手法を用いて、各施策を推進した結果が短期、中期、長期のそれぞれで目指す方向性に合致しているかを確認。
- ・ 計画期間中は、施策を構成する事業（活動）とその結果（アウトプット）、施策に関係する短期アウトカムを確認し、事業の方向性やその実施状況を分析することで施策の進ちょく状況を測る。
- ・ 計画の振り返り時には、重視する視点を構成する施策の進ちょくを分析することで重視する視点の指標や市民参加推進力の向上が図られているかを確認
- ・ フォーラムからの意見で事業等に関するものは、関係課にフィードバックすることで事業の改善につなげる。

まちの育成力（仮称）

重視する視点 2
次世代につながる市民参加の裾野の拡大

施策 1 到達を重視する情報発信

施策 7 次世代につながる市政参加

施策 9 まちづくりに取り組むきっかけづくり

施策 1 1 地域コミュニティ活性化への支援

施策 1 2 持続可能なまちづくりを支援する仕組み

まちの課題解決力（仮称）

重視する視点 3
協働による課題解決への挑戦

施策 4 市政参加の機会の充実

施策 6 協働の成果や手ごたえの共有

施策 8 協働する市政分野の拡大と新たな挑戦

施策 1 0 S D G s を背景とした多様な主体の参画促進

施策 1 3 多様な主体の協働による社会課題解決への挑戦

短期アウトカム（毎年）